

〔萬葉集相聞〕神龜元年甲子冬十月幸紀伊國之時爲贈從駕人所詠娘子笠朝臣金村作歌一首并短歌

天皇之行幸乃隨意略○中麻裳吉木道爾入立眞土山越良武公者略○下

〔冠辭考一〕あさもよし城木のべの宮

萬葉卷一に淡海大寶元年調朝毛吉木人乏母亦打山中略是までは紀伊卷二に朝毛吉木上宮乎中略

是は大和國城戸なりこは淺葱アサキてふ色の事なるを上に淺よといひて葱とつゞけしならんか略○中さて

毛與志の毛と志はたゞ助辭のみ與は呼出す辭也略○中

又或人集中に麻衣さればなつかし木の國のいもせの山にあさまけわぎもとよめると又眞間の娘子をよめる歌にひたさ麻を裳には織きてなど有を以て紀の國よりよき麻裳を出せし故によめるかといへど總て國つものを以て冠辭とせしはなきよしは上下にいふが如しその上この冠辭は紀伊のみにもあらず山との城戸にもつゞけたれば此説は違へり

位置

〔十寸穗の薄一〕紀伊國

一天經北極卅四度

〔地勢提要乾〕各國經緯度附里程

紀伊和歌山港久保町極高三十四度一十三分半經度西三十四分半從東都東海道經大坂一百六十八里三丁四十一間半

紀伊新宮船川極高卅三度四十三分半經度東一十四分從東都東海道自日永追分參宮街二百一十八里二丁五十間半

紀伊田邊本町極高三十三度四十四分經度西二十二分半從東都同上二百一十里七丁三十間